

## 第7回桜川市立小中学校適正規模等検討委員会議事録

開催日時 平成21年6月25日(木)

午後7時～午後9時

開催場所 桜川市役所大和庁舎3階大会議室

### 出席者

委員：平田雅巳、鈴木克己、櫻井信文、藤田尚雄、永瀬清光、古谷田進、鈴木清、海老原睦、安達尚志、櫻井晃司、西岡義広、鈴木孝雄、金澤真知子、大武茂樹、櫻井昇

事務局：学校教育課(上野、榎戸、田嶋、藤田)

事務局： 第7回桜川市立小中学校適正規模等検討委員会を始めます。

委員長： 先月はアンケート調査の集計ということで今月になったわけですが、この前の6回の検討委員会では、給食センターについて説明をしていたきご意見を頂戴しました。簡単にいいますと、北給食センターの方は大変傷んでおりまして40年経過しており修繕費も年々増加している状況で調理も2,200食です。南給食センターは平成4年に建てられて17年経過でまだ新しいです。調理能力も3,000食で北給食センターよりは規模の大きいセンターで運営されているようです。そういう中で給食センターをどうするか。1つは岩瀬地区に新たな給食センターを作るか作るとすればその間給食をどうするか、給食をストップすることはできませんから、その間南給食センターに立て替えをして南給食センターと北給食センターを統合して新しく作るか。また南給食センター施設を拡張して給食センターの運営をするのか。北給食センターと南給食センターでは15分位ですので1ヶ所の給食センターでも出来るとなれば今後給食センターをどうするか。桜川市として統廃合するか、業務委託の方法もありますが、これからどうするか進めていきたいと思えます。北の給食センターの老朽化が進んでいますので心配です。今日はアンケート結果についてですが給食センターの統廃合についても答申をまとめて行きたいと考えていますのでよろしく願いいたします。アンケートの調査が終わりまして、回収率85%で事務局職員の方には感謝をいたします。

アンケート調査の結果を事務局から説明して頂き、率直な意見を聞いてこれからの方向を進めていきたいと思えますのでよろしく願いします。

アンケート調査の結果について説明をお願いします

事務局： 《資料確認》  
《アンケート調査の結果説明》

委員長： 細かい集計をしていただきありがとうございました。  
以上のような結果ですので皆さんの率直な意見をお願いいたします。  
それでは、PTAの方で●●委員をお願いします。

委員： この5月で会長は辞任しまして委員としていいです。旧真壁、旧大和、旧岩瀬は都会的でなく田園地区の各学校の結果だと思います。その中で人数のばらつきがあり、そんな極端なこともなく現状維持で、クラスの人数も20人から30人で少数がいいのかな。アンケートの集計は一覧でなく目に訴えるような形ものと思った。

委員長： ●●委員さん。

委員： アンケート調査の回収率が低かったように思った。アンケートの集計結果ですが、保護者が考えていることがだいたい同じだなと思った。結果の数だけで決めていくのは抵抗がある。少数意見も取り入れないといけないという気がします。

委員長： ●●委員さん。

委員： だいたい予想していたとおりかな。他の学校は分かりませんが、●●小学校の代表ですが保護者もアンケート調査を何でしているか分かっていないんじゃないのかな。会議の時にアンケートをやっていることを保護者に話したらそういうことをしていると言われました。それで保護者の方がこのアンケートをどういうふうな気持ちで回答したのかなと疑問に思いました。結果についてはだいたい想像していたとおりです。

委員長： ●●委員さんどうですか。

委員： アンケート調査の結果で施設面ではトイレなど衛生面の施設・整備は優先的に取り組むべきであるが多かった。別の学校ですが子供にトイレ掃除はさせないところもある。本来子供達になにが必要なのか、アンケート結果も必要ですが、桜川市の教育の方針というものをもう1回見直す必要がある。アンケートで子を預けている親の意見ではありますがそれをそのまま鵜呑みにしてはいけないと思います。今の子供達は恵まれていて、自分で判断することが出来なくなって衰えている部分がありま

す。これをふまえて適正規模の委員会が開かれているわけですから、桜川市は子供達をどういう人間に育てていきたいのか、育てるのか、きちんともう1回考えるべきだと感じました。

委員長： ●●委員さん。

委員： アンケートの結果を見ましていただきたい現状維持が皆さんの考えだと思いました。クラスの人数が現状より少なめということは、保護者がぎすぎすしたクラスで授業を受けられないということの現れではないかと思いました。アンケートはあくまでも参考なのかな。その他の部分で何か変わった意見はないのか、登下校の問題、統廃合の関係で何か出ているのか。

事務局： 最初に説明しなかったのですが、その他の意見をアンケートの結果に入れていなかったなので、今回の議事録を送るときにその他を入れまして送ります。

委員： おそらくアンケートの結果は本当のところしか出でこないと思います。

委員長： その他での少数意見も取り入れて考えないといけない。  
●●委員さん。

委員： アンケートを配るときにこういうことで調査をしますので渡してくださいといって生徒に配ったわけですが結果は現状維持なのかな。小学校、中学校、区長・副区長がそういうことを考えていると思います。検討委員会でこれから先のことを考えて進めていくべきなのかな。アンケートの結果で先を見るのは難しいと思います。桜川市の方向性をすり合わせながら考えていかなければいけないと思いました。

委員長： ●●委員さん。

委員： アンケートの結果の小学校、中学校、区長・副区長の中で一人一人に目が行き届くのを望んでいるのが分かりました。ただQ8ですが、現行の学校配置を維持するについては半分以上、Q8-1でその理由としては、学校は地域の中核となる施設であるからを注目してもらいたい。  
3. 子どもに地域への愛情を育てさせるべきだからの数字ですが回答の割合は高いと思います。最後はどんな環境であれ子供達が成長したら地域に戻る子どもを育てるべきである。そうすれば地域が活性化していく

のではないかと思います。

委員長： ●●委員さん。

委員： 回収率ですが58%で悪いのですが、区長会の時に教育委員会の方から区長の皆さんにはこういうことをお願いしますとありましたが、副区長さんはこのことがわからなくて回覧の時に封筒に入ったものを渡されただけで、区長から副区長にアンケートの説明がなされなかったため回収率が悪かったと思います。アンケートで統廃合するのかと聞かれました子供達の通学はどうなるのか、バスがでるのか、いろいろ聞かれました。地区の小学校を残して統合したくないのが現状です。

委員長： ●●委員さん。

委員： 農村地域も現状維持でいいのではないんですか。時代の流れで統合はしかたのないことですが、西方より学校まで自転車で15分かかりますが今の時期はまだ明るいのでいいのですが、冬になると暗くなり大変です。なので現状維持のままがよい。

委員長： ●●委員さん。

委員： 現状維持でいいです。農村の考え方は住宅密集地とは少し考え方が違うと思います。

委員長： ●●委員さん。

委員： Q4、Q8では現状維持で3分の1です。この意見を尊重するのか。このままでやるのかのどちらかですね。あとQ9で学校への人材配置について優先して取り組むべきことは1. 学習指導力の高い教員の配置、2. 生活指導力の高い教員の配置、3. 心の相談員・カウンセラーの配置も回答数が高いです。

委員長： 小規模校のメリット、デメリットがありますが全くアンケートの結果が同じです。将来の桜川市の教育委員会の課題になるのが、Q7で通学区域の弾力的運用については、1. 現行通り、1校指定でよいと2. 現行制度に工夫を加える程度で良いで接近している。Q8の児童・生徒数が大きく減少すると予測される学校の今後について一番多いのは2. 通学区域の弾力的運用を進め、現行の学校配置を維持するのが多い。3.

標準学級を満たさなくなった学校から順次、適正配置を検討 286 4. 適正な学校規模・学級規模を確保できるよう適正配置を検討 274 でしたすと 560 になる。2. 通学区の弾力的運用を進め、現行の学校配置を維持するは 560 で同数になる。これらがアンケートの課題の 1 つになると思います。統合について何か意見は。

委員： 子ども達が少なくなれば統合しなければならないわけですが、これが何年先になるか分かりませんが、このままの状態を皆さんで話し合い、PTA 保護者で話し合い、地域住民で話し合ってアンケートの結果でやむおえないだろうという形をとっていけば 1 番いいのではないかなと思います。小学校の児童数も減ってきているので早急に考えて行かなくてはいけないと思います。

委員長： 通学の方法、児童数のことも考えなければならない。個別の学校名で猿田小学校の児童数が少ないがこのままでいいのか。検討委員会で検討していく必要があります。

委員： 桜川市の子どもにとっていい教育とは何か欠落していると思います。先行して 7 地域が計画で発表しています。取手市、つくば市で発表して反対運動もしています。子どもが少ないので統廃合をやりましょうという流れになっているが、そこで学ぶ子どもが一番いいのはどういう規模なのかの話でなく、子供達に 1 番いい教育を育てるには何がいいのかでこれまで先行してきた検討委員会では欠落しているし、県に出した指針も欠落しています。地域に戻ってくる子供達を育て、子供達にとっていい教育とは何か、適正とは何かを示したいと思います。

事務局： この検討委員会は統合、弾力的運用で子どもが少なくなっているためどうするかでアンケートは 1 つの手段なのかな。適正とは子どものためにどういうあり方がいいのか。34 年後の推計表を出しますが適正の理想とはいえませんが 1 クラス 20 人から 30 人、学級が 18 から 20 が形としては望ましく 5 年先は維持できますが、10 年先は推計で難しくなります。適正とはどういうことなのか。理想の形はどうなのか。アンケートとおりがそれとも違うのか。

委員： そうだと思います。取手市の場合学校教育委員会学校基本計画があるわけで、桜川市としても国があって県があって準じて作っているわけで、その資料として委員さんに提供して、桜川市の教育委員会は力を入れていることを委員さんに見てもらいたいことだと思います。今、桜川市がとろ

うとしている全体計画の資料を出さないと、この委員会も丸投げです。

事務局： 取手市さんは基本計画ですか。学校の基本計画ですか。

委員： インターネットをたどればそれが出できます。

事務局： 桜川市の基本計画を提示します。

委員： 基本計画があつてその反対の部分もあるわけで、そのことで全体が見えていくことと、検討委員会が行政側で都合良く使われたりするわけで、ここでそれなりの答えをいただいた上で計画しました。元を作ったのは検討委員会の委員さんが作ったという形にされてしまうわけで、委員会の次のステップを踏む時に意見の集約をされた方がよいのでは。

委員長： 最終的に答申するわけですが、答申した内容を教育委員会にかけ、教育委員会に諮ってから議会の文教委員会で報告され、実施段階になると地域の説明会もしなければならぬ。その他いろいろステップがあると思います。桜川市の適正規模をどうするかを決定していくための土台作りをしていくこと、また小さな学校の統合を見ますとこの状況では学校生活ができないということで、統合していくわけでそれを合わせて考えていただきたい。アンケート結果は現状維持ということと桜川市の教育基本方針が具体的に示されていない。どこの市町村も教育基本方針は示されていると思います。

委員： 教育方針はありますが現実にはあまりにも違いすぎます。桜川市内の幼稚園、保育所で家庭教育のできない親が増えています。箸の使い方ができない、子どものおむつをとることができない親がどんどん増えていく。来年度この適正検討委員会はこれだけを討議するだけではもったいないので、是非桜川市教育全体を別の形の組織でやるべきだという答申し、学校を減らすことでなく自分たちの子どもをいい人間にすることが第一だと思います。

委員長： 他に意見は。

委員： ここで答申がでて、受けますがその後どうなりますか。

事務局： 答申がでたら教育委員会から諮問しまして、答申にそつた形の中で基本計画を作りまして議会に出しその手続きを経て学校区で説明会を開

きその後基本計画ができる手順です。

委員： 日曜日につくば母親大会がありましてそこで計画発表されてそれに対して新住民たちでない旧つくば町、荃崎町の人達が基本計画が先に出でそれについて相談といわれても地域の話もできないといっていました。基本計画は10年・20年先、示されてしまうわけで計画は変えられないので、この委員会の方向性は出でませんが方向性が出た後の教育委員会でどの時点で地域住民を入れていくかが問題だと思います。

委員長： アンケートの中で通学区域の弾力ということですが、現行の学校配置を維持する。これが適正規模につながるだいな意見だと思う現在の学区の中で弾力的な運用で何かありますか。

委員： 大和地区の青木は通っている小学校は岩瀬小学校で中学校は岩瀬西中学校に通っています。小学校は近いが中学校は現状で決まっている。真壁地区は中学校で近い方をとっていると思う。

委員長： それが弾力的というのだと思います。

委員： 現状は弾力的に運用している。

委員： 小学生の2割・3割は大國小に来ていて、7割ぐらいは岩瀬小に通っている。  
中学生は全部大和中に来ているわけではない。桜川中に通う生徒が桃山中に通っている生徒もいる。

委員長： 亀熊地区ですか。

委員： 住所が亀熊の子どもが真壁小から桃山中に行く。桜川中の裏に住んでいて桃山中に通っていました。

委員長： 他には。

委員： 弾力的運用ではありませんが、桜川中の区域ですが桃山中に通いたいとのことで、年に1回届け出をして来ている生徒がいる。椎尾団地に住んでいますが真壁小に来ている子もいます。今の弾力的運用は少ないところに持って行きたいということですが、逆に多いところに行きたい傾向があります。猿田小の近くに団地を作ったけれども羽黒小に行ってい

ます。

委員長： 桜井地区はどうか。

委員： 桜井地区は真壁小に行っている。

委員： 学校の弾力的運用は国の指導でうたっています。知られていないのが現状です。大和小の方が真壁小に家を建てて小学校終わるまで同じ小学校に通わせてくださいと言っても住所が変わったら学校も変わって下さいといわれ相談を受けたことがありましたが結局卒業まで住所を変えないで行っていました。弾力的運用がされている部分とされていない部分がある。

委員長： 樺穂小学校は桜川中学校にいくのですが、その子は塙世地区の子どもでどうしても桜川中に行きたいということで通いました。学区は決まっていますが弾力的になっている

委員： 保護者がそういうことを知らない。聞かないと分からないし現実を知らない保護者が多い。要望だけいう保護者も多いです。

委員長： 他には。

委員： 学区は市町村の判断でできる。文科省は指導している訳でなく認めている。

委員長： 他にはありますか。

委員： 旧大和村の時代から大和地区はなっていた、真壁町は50年前の合併の時に長讚村から源法寺地区が分村し真壁町に入った時に桃山中に行かせたい理由でそうなったと聞いた。流れで言うと大和も合併の時に地区自体が割れて岩瀬と一緒にになりたいとの線引きが出来ていて50年続いてきたのではないか。岩瀬、大和、真壁が合併により1つになったわけで50年続いていた地区を今になってこっちに来てとはいえないし難しいことです。弾力的部分では完全に自由化するのは私個人としてはしない方がいいと思います。完全にフリーにした弊害が東京の足立区やその他で出てきている。学校に入る子で希望者0人という学校が廃校になっている。親の都合であっちこっちに大移動して子どものための教育プランは成り立たないと思う。親に選択を100%任してしまうのは

しないほうがよい。枠があり、希望があった場合だけにその理由を認めて行かないと桜川市の教育プランは成り立たない。

委員長： 学区は現行とおりで良いが多いので、完全自由化はできないと思います。弾力的運用を検討することで適正規模に近づけることが必要ではないか。他にありますか。

委員： 小学校と中学校はセットで桜川中は樺穂小と谷貝小の子どもが通うわけですが真壁小の子どもが桜山中に通いたいといえれば選択して下さいとしかいえない。

委員長： 他には。

委員： 各分校がありそれに伴って通って大岡地区の場合、東中のほうが近いからといったら元々岩瀬の大岡なのだから東中には行かないとなった。一概に学校が遠い、近いは別です。

委員長： アンケートの結果からの質問、意見はありませんか。

委員： 桜川市の適正な学校配置はどういうことなのか。桜川市の保護者意見はQ8児童・生徒数が大きく減少すると予測される学校の今後についての質問で、保護者の方は考えてこういう答えを出していると思います。適正配置についてはこれが全てではないと思います。規模についてはクラスの数は理想的な数だと思います。アンケートのと通りの学校を作れば理想的な学校ができると思います。

委員長： Q8は3番、4番についてが検討委員会での課題ではないかと思う。

事務局： 学校で考えているのはソフト面で子どもたちの教育、ハード面で施設今の学校をどう維持管理していくのかを含めて資料を出していきますのでその点をよく考えて頂きたい。学校の耐震診断は全部やりますがどうい結果がでるか分かりませんが、老朽化した学校をどうするかも検討して行かなければならないし、永久校舎として建てた学校を今後なんらかの処置を考えなければならない。

委員： 角の立つ言い方ですが、親の意見は今の現状のままでいいといっているわけです。

事務局： 現状維持は配置的には現状維持ですがその他の意見の中で老朽化した

校舎は改修して下さいとの意見もあります。

委員： 当然だと思います。なぜかというところ、中学校は新しいですが岩瀬東中、西中は問題です。ハードの部分を設置するのは行政の義務なのです。だめな校舎はそこで建て替えて下さいと保護者は願っています。それをしなかった行政の怠慢でしかない。そうすると金がないと言いますがそうしたのはいったい誰なんですか。12校の学校を建て替えるのには100億以上のお金がいるでしょう行政側から住民に申し訳ないがとお願いされる筋でありそれを果たせないわけですから。単純にハードの面を考えて下さいではすまされないと思う。

委員長： どこの市町村でも建物の8割、9割文教、施設面です。施設に要する費用は莫大なものだと思います。古くなれば故障、破損もしてくるので修理もしなければならぬ。設置者は市ですから耐震補強はやらなければいけないわけで、親とすればハード面ではなく子どもの就学ですからお互いに理解しあっていかないといけない。ハード面の資料は出ますか。今年の耐震はどこの学校ですか。

事務局： 岩瀬西中学校と体育館を含めて28棟です。28棟は昭和56年以前に作った施設で計画的に耐震補強していきます。今年度発注して結果が遅くなりますが結果によって耐震補強か改修かを判断していきます。

委員長： 2、3年の見通しは。

事務局： 岩瀬西中学校の後岩瀬東中学校をやります。小学校が問題で耐震診断の結果を見ないと分かりません。

委員長： 小学校の耐震診断はどうですか。

事務局： 昭和56年以前の建物は全部やります。耐震診断で危ないと分かれば耐震補強をやります。

委員長： 分かりました。ハード面、ソフト面の両方と推計及びQ8の適正規模について話を進めて行きたいと思いますがいかがですか。

委員： 桜川の子供たちにとって一番いい教育は何かで進めるべきです。

委員長： 適正規模とははずれる気がします。

委員： なぜ適正規模かという少子化でこどもがいなくなるための適正規模でなく教育のための適正ではないのか。

委員長： ソフト面ですね。学校教育だけでなく広い意味で関係してくると思います。

委員： その中に教育の部分を入れて頂いてもう少し委員会で意見を伺った方がいいのでは。

委員長： 教育の中で欠けている部分かもしれません。学校ばかりでなく家庭の教育問題です。

事務局： アンケートのその他を入れまして、推移計の資料も用意します。桜川市として教育はこうしていくというものはどうしますか。市の考え方を述べるのは問題ないのですが、深く入った場合は事務局だけではどうしようもない。

委員長： アンケートの結果を尊重したいので特に検討委員会で取り上げたいのはQ8なのでこれについて意見をいただき、適正規模についても意見を出していただき進めていきたい。どうでしょうか。

委員： それでいいです。

委員長： 次回はQ8で進めていきたいと思います。よろしいですか。

委員： アンケートを作っていたいただいた結果をどういうふうに載せるか。どういう形で載せるか。回答してくれた人にどんな形で返すのか。

事務局： 担当と話を進めていませんが広報やホームページは必ず載せます。広報はページの枚数に限りがありますので、その他何か方法があれば教えて下さい。

委員： 小学校・中学校・区長も入っているので広報か何かで。

委員長： そうですね。

委員： アンケート結果ですがこのままだと分かりにくいのでグラフかなにか

で小さくするといいのではないか。

事務局： グラフは作成してあります。  
区長さん全部、各学校保護者、ホームページで載せます。

委員長： 分かりやすい方法でお願いします。

(次回第8回検討委員会の日程を7月28日(火)午後7時から 大和庁舎3階  
大会議室で開催)